

リスクコミュニケーションの基本

毎日新聞の小島正美

2011年11月21日

リスクミで大事なこと

- ◎自分の言いたいことを、相手に「正確」に、「分かりやすく」伝える
 - ◎どちらにも解釈できる「あいまい」な表現は避ける
 - ◎もし、相手が誤解して解釈したら、すぐに「それは誤解です。私の言いたいことは、これこれです」と訂正する
- 上記のことは、会話の基本でもある

3月の緊急とりまとめ

- ◎活字のとりまとめ＝年間10^{ミリ}は不適切とま
でいえる根拠はない。5ミリは安全側に立った
もの→「あいまい」では！
- ◎記者会見＝「5ミリです」
- ◎ある専門委員＝「10^{ミリ}と受け取ってもよいの
では」
- メディアは「5ミリ」と報道。しかし、緊急時に
は10^{ミリ}を採用しても可とも→「あいまい」。

3月30日の各新聞

《各社の見出しをひろった》「微妙な違い」

- ①毎日＝「セシウム規制値妥当」
- ②朝日＝「暫定基準維持」(現状で妥当)
- ③読売＝「現状維持」(現状維持妥当)
- ④日経＝「緩和も容認」
- ⑤産経＝「基準値緩和含み」
- ⑥東京＝「かなり安全、緩和判断」

3月のまとめの特色

- ◎文章上のとりまとめの表現は5とも10とも受け取れる「あいまい」
- ◎記者会見でははっきりと「5ミリ」
- ◎記者が迷う→正しい記事ができるか？
- まず、活字の表現をはっきりさせ、そのうえで会見で念を押せば、誤解は生じなかった
- 公開での議論（10ミリが大勢）と委員会の結論の食い違いも背景にあった

7月の評価案

《生涯100ミリは、外部も含むか》

- ①朝日新聞(7月22日)＝「食品だけでなく、外部被ばくを含む」とあえて書いている
 - ②読売新聞(26日)＝「100ミリを内部と外部に振り分ける作業が必要になる」
 - ③日経新聞(26日)＝「外部被ばくも含んでいる」
- 全記者が間違っって聞いたのだろうか？

7月の評価案の内容、表現

- ◎評価案のp19＝「食品健康影響評価は、食品の摂取に伴うヒトの健康に及ぼす影響についての評価を行うものであって…。当面は外部被ばくは著しく増大していないことを前提
- ◎小泉委員長のメッセージ(26日)＝「この値はあくまで食品のみから追加的な被ばくを受けたことを前提としています」
- これで真意が伝わるだろうか？

なぜ、指摘しなかったか

- ◎7月22日の朝日新聞、産経、共同の報道で「外部を含む」とある。このとき、なぜ、おかしいと指摘しなかったのか？
- ◎26日の段階でも、再度「外部を含むと報道されているが、それは違う。内部だけだ」となぜ、言わなかったのか？
- 間違いが国民に伝わっても、よいと思ったのだろうか？

記者の質問にも「外部」と答えた

◎7月26日の段階で記者から、外部を含むとなると、今後、内部と外部の振り分け作業が重要になるが、どうするか」といった質問に対しても、「それは違う。今回は内部だけです」となぜ、はっきりと言わなかったのか。

■そこで、はっきりと言っていれば、何の混乱もなかったはず。翌日の記事は、振り分け作業を書いている。おかしいと思わなかったのか？

7月の問題点

◎文章の評価案＝明確な表現がない。あいまい。

◎メッセージも明確でない

◎会見の山添座長の説明＝「外部も含む」と答えている

■「あの外部は、評価に用いたという意味。生涯の100ミリのことではない」とあとで説明。

■3月のときと、同じ過ちを犯している

8月2日の意見交換会

- ◎市民たちは「外部も含めた線量」で質問をしているのに、委員会側は「それは誤解」とは言わなかった。なぜか？
- ◎翌日の新聞も、外部を含めた100ミリとまとも報道しているのに、ここでも、なぜ、誤解だと言わなかったのか？
- 何度も、誤解をただす機会があったのに、なぜ、放置したのか？

8月2日に配布したQ&A

◎問4＝「あくまで食品の健康影響評価として、追加的な被ばくを食品のみから受けたことを前提に」・・・続いて「この値については、外部被ばくを含めた線量として捉えることも可能と考えられます」

■これで正しく理解できるだろうか？

8月2日の意見交換会



- ◎ここでも、外部被ばくを含めた議論が展開
- ◎山添座長は「外部被ばくを含む」と説明
- ◎翌日の新聞も、外部含むと報道
- 交換会に来た市民が誤解していたのに、食安はそれを言わなかった？

8月2日の時点でも誤解

- ◎この時点でも、まだ誤解が続いた
- ◎国民は、食安の真意がわからないまま、パブコメをしている
- ◎パブコメを募集するよびかけ文に、簡潔で明確な結論と理由がなかったせいかな？

記者への事前レク

- ◎10月26日の事前説明会で、記者たちは初めて、「食品の被ばくだけで生涯おおよそ100ミリだ」と知る。驚き。
- ◎食安は絶対に「外部を含む」と説明してきたとする記者と“対立”。
- ◎全メディアは7月から、延々と誤報を流してきたのか？ これほど巨大なリスコミの失敗は見たことがない(私の感想)。

10月の評価書のあいまいさ

- ◎これだけ議論になっているのに、なぜ、はっきりと「生涯100ミリは、食品による内部被ばくだけ」と表記しないのか？
- ◎記者が質問しないと明確な意味が分からないような表現でよいのか。
- 「自信がない表れではないか」。トランス酸の説明会では自信をもって答えた
- 放射線専門家を活用できなかったのでは

3月の食安の教訓は何か



- ①何を国民に一番、伝えたいかをまず明確にする
- ②真意をA4サイズの内紙にわかりやすく、2～3つにまとめる
- ③誤解報道があったら、すぐに指摘する。意見でもよい

3月と10月は同じ

- ◎共通すること＝文言はあいまい。記者会見で説明しないと分からないような内容になっている
- ◎会見と評価書が異なるようにみえる
 - なぜ、あいまいな評価書になるのか？
 - ★過去にBSEでも似たことがあった。確率的なリスク評価になると苦手といえないか
 - ★専門外の評価に対して、自信がないせい？

まとめ「では、どうすればよいか」

■ゆがみを直す方法はあるか

- ①あいまいな表現は使わない
- ②記者に気づいてもらうことが先決。誤解は、すぐに指摘する
- ③信頼のおける人物、専門家、機関が説明
- ④リスクの大きさを、わかりやすい言葉で伝える。放射線のリスクを正しく伝えきれなかったのでは

会議の進め方の改善

- ◎公開はすばらしいが、議論の進め方に改善の余地があるのではないか
- ◎公開の場で、肝心なポイントを中心に、意見を交換・集約する方法をとれば、誤解はないはず
- ◎公開の場で何が重要な情報かが分かるような形になっていない。委員会が決めた結論をあとで聞いて驚くような会議の進め方を改善する必要がある